

防災・災害

強み

意見（原文ママ）	意見数	いいね数
田畠が多く、米、野菜等いつも確保できている	60	72
助け合いの気持ちがある	46	40
住民同士が顔見知り	45	58
防災訓練を実施している	42	33
お互いに隣近所の様子が分かっている	37	27
高台のため水害が少ない	35	18
津波の心配がない	32	17
地域（近所）の繋がりが強い	30	52
日頃、近所の人とコミュニケーションがよくとれている	28	21
井戸多数あり	26	62
避難所が近く、多い（公共施設：学校、文化施設）	26	15
消防団がある	24	14
平地が多く、がけ崩れなどの被害が少ない	21	7
長年大きな災害がおきていない	18	11
連帯感がある	16	11
五者協定を結んでいる	15	42
防災意識が高い	14	7
多方面な能力を持った人がいる（マンパワー）	14	16
いつも隣近所の人のことを気にかけてくれる	13	16
近所の仲が良い	12	11
大きな氾濫しそうな川がない	11	2
病院がある	9	17
自然が豊か	8	10
若い方が多いので何かあった時はみんなで動ける	8	8
国道が通っている	8	4
地震が少ない	8	4
道路網が比較的多い	8	1
住民台帳を作成している	7	6
災害時の連絡網が整っている	7	5
安否確認、避難支援シートにより避難に支援が必要な人を助けることに繋がる	7	7
行事に対して参加が多い	7	12
スーパーがある	7	10
防災訓練に主体的に参加する	6	10
わりと家が密集しており対応しやすい	6	0
災害時居住者名簿を作成している	5	2
安否確認をしている（年1回）	5	4
自主防災の組織がある（訓練含む）	5	2

市役所が近い	5	10
食料の備蓄がある	5	3
家屋が密集していないため、火災被害が少ない	5	0
人数が少ないので確認が容易	5	8
自治協がしっかりと取り組んでいる	5	4
山からの自然水	5	5
山・崖から離れている	5	1
汲み取り式トイレがある	5	4
公共交通がある	5	1
防災用品を自治会として常備している	4	4
高齢者の集まりがある	4	0
自宅での避難ができる。	4	1
かまどがある	4	1
川上ダムが建設された	4	3
女性が強い	4	17
消防団の動きが早い	3	7
ネットワーク会議が年三回ある	3	2
暖をとる木にこまらない	3	3
地震時に家屋がしっかりとしていて崩壊が少ないと思う。	3	0
農地が多い	3	1
ヘリコプターが着陸できる場所がある	3	1
黄色いタオル運動（避難訓練の時に安否確認ができる）	3	1
それぞれ住んでいる地図・地形が頭に入っている	3	2
区画整備ができている	3	1
ハザードマップの周知がされている	3	1
消防署が近くにある	3	0
近所の情報が共有できている	3	5
水難が来た時避難場所が（市民館）が坂の上にある	3	1
災害、河川改修が進んでいる	2	0
地区内の危険な場所を知っている	2	6
防災倉庫が完備されている	2	1
ハーモニー＆文化センターに避難できる	2	0
近くに温泉	2	11
道幅広い	2	0
車を持っている家が多い	2	8
人々がおだやか	2	0
民生委員が見守りをよくしている	2	1
隣の人と意思疎通できている。	2	1
訪問看護師さんが地域に居てくれること	2	3
山が多い	2	0
盆地のため台風の風が弱い	2	2
のんびりしている	2	1
川の堤防がしっかり高いので水害が少ないよう思う	2	1
五右衛門風呂がある	2	0
市長・議員さんとの距離が近い	2	0

防災マップの更新がされている	2	1
重機など持っている人がいる。	2	6
地区内の安心見守りマップの作成（災害・防災・お年寄り・弱者）	2	0
一年分の米を蓄えている	2	1
トンネルが出来たので便利	2	2
年に1回クリンデーがある	2	1
エリアトーカで全住民に連絡できる	2	1
日中人がいる。	2	1
サルが出没してもよせに行ってしまう	1	0
年間を通して自主防災事業実施	1	0
山へおしつこに行ける	1	1
持ちよって炊き出しができる	1	3
組の連絡網が電話・LINEもある	1	1
センターで避難時の情報がわかるようになっている	1	6
地縁、血縁が色濃く残っている	1	0
以前の災害で危険地区の予防措置ができる	1	0
蕉門ホールがあること	1	0
地区でグループに分けて対応している。青山上津地区、瀧地区	1	0
村祭りや伝統が続けられている	1	3
担い手なし	1	0
変電所に近く停電が少ない	1	1
消防～自治会・自治協のネットワークがある	1	0
避難所運営訓練が毎年実施されている	1	0
外国人の方で組長をしてくれる方もいる	1	0
地域の弱みを知っている（理解している）	1	2
子ども（小学生）がグループで活動している	1	2
市民センターがある	1	1
文化センターがある	1	4
近所に駐在所がある	1	2
防災講演会を毎年実施している	1	0
各地区の方が1次避難場所を分かっている	1	1
避難する必要のある人が少ない。	1	0
孤立集落	1	0
花垣地区が5区に分かれている	1	0
防災マニュアル配布している	1	0
遊水地がある	1	0
連絡網の訓練を年1回行っている	1	1
消火栓がある	1	0
ひだまりくらぶ＆キッチンがある	1	2
プロパンガスなので燃料がしばらくもつ	1	0
防火水槽がある	1	0
ほぼ地域内で生活が完結できる	1	1
市民センターを中心としたネットワークが強い	1	1
昔ながらの町で家族制度が安定している	1	0
各地区に自治組織がある	1	0

携帯が繋がりやすい	1	2
納期小屋がある	1	0
若者にはない経験がある	1	1
防災倉庫に体験隊のライフジャケットやカヌーが置いてある	1	0
外国の方も自治協（行事）に参加している	1	1
施設（福祉）が多い	1	1
住民ネットワークがある	1	0
各地区に消防ポンプ及びポンプを運ぶトラックを配置している。ポンプの点検も行っている。	1	0
企業が多くある	1	1
地域との企業（イオン）との繋がりが強い	1	2
町内で無事旗が用意されている	1	1
今夏休みは、ラジオ体操もやっていて運動公園に老若男女が集まっている	1	0
祭りや運動会の実施	1	0
地域食堂等地域の中で顔の見える関係ができているところもある	1	1
地域同士、地区同士の連携ができている	1	1
隣近所のつま合がある	1	2
非常に役立つ情報が共有できている	1	1
高層ビルがない	1	0
高齢者が元気。若い者にないリーダーシップを持っている	1	0
兵糧攻めにあいにくい	1	1
墓地管理がきちんとしている	1	0
歴史文化人、誇れる	1	0
空いている部屋がある	1	1
人間灾害（犯罪）比較的少ない	1	0
空気がきれい	1	1
避難所まで遠い	1	1
コンビニがある。学童保育がある。彩四季がある。	1	3
住宅が多い	1	0
学校とのつながりが強い	1	7
ハザードマップウォーキングを実施、啓発	1	4
一人暮らしでも安心して生活ができる	1	2
小規模集会所の耐震対応ができている。2001年基準。	1	0
防災フェスタ	1	0
ガソリンスタンドがある	1	2
ドローンがある	1	0
町づくり会がある	1	0
電気屋がある	1	1
交通障害が少ない	1	0
歴史的な神社がある	1	1
一人ひとりが個人でなんとか生きていけそう	1	0
災害時に対する強みがない。	1	0
南部で連携が取れている。自治会がしっかりしている	1	1
区なび小場の月一の会議があり情報共有が豊か	1	0
公民館はWi-Fi環境が整っている	1	2

自治会と自治協との繋がり（学校）	1	2
ため池	1	0
防火用（飲用可）地下タンクがある	1	3
災害グッズを用意している	1	0

弱み

意見（原文ママ）	意見数	いいね数
高齢者が多く、若い人が少ない	75	53
土砂崩れが心配	47	26
道路が寸断されたら孤立状態に陥る	45	39
高齢者や動きづらい方の避難方法	42	24
電気、水道、ガスが止まる	37	27
家が古い。空き家が多い	32	27
氾濫しそうな池・川がある	30	19
若い人たちがいないので助け合いが難しい	30	11
道が狭い	26	18
いざという時の避難所が少ない	20	16
避難場所が遠い	19	9
河川と山に民家が近い	19	9
避難場所がキャバオーバーする	18	26
病院が少ない、遠い	17	11
消防団員不足	17	23
地域の繋がりが希薄である	16	10
お買い物場所が少ない	14	10
地下を断層が走っているため、大きな地震が来ないか心配である	12	3
日中は若い人が仕事で不在	12	14
プロック塀の点検	1	2
災害時の食料備蓄が少ない	12	7
一人暮らしが多い	10	12
集落が地理的に離れており、孤立しやすい	8	3
名阪国道が通行止めになると物資がすぐに手に入らない	8	6
公共交通機関が不便。移動しにくい	9	9
避難所が水没地域にある	7	3
倒木の危険が大きい	7	4
古い家の倒壊が心配	7	2
近所の人の事がよく分からぬ	7	3
場所によって携帯の電波が悪く使えない	7	8
防災を自分事として考えてない	6	0
避難所となっている体育館の雨漏り・トイレ修理を市がしてくれない	6	5
建物が老朽化して不安。避難できないかも	6	2
市民センターへの避難時、どうしても河川を渡る必要がある	6	1
何をするにも自治会が声を上げないと動かない	6	4
避難場所がよく分からぬ	6	4
道路網が貧弱。	6	5
河川の草が生い茂り、大雨の時が心配	6	2
車が無いと生活できない	6	8
連絡が取れるかわからない	5	1
今まで大丈夫だったからこれからも大きな災害はないと考えている人がまだみえる	5	1

自主防災意識が低い	5	0
橋が壊れ通行不能となる恐れがある	5	2
水害が心配	5	0
ハザードマップ上危険箇所が多い	6	3
人が少ない	5	5
災害になれていない	4	8
避難所があるが設備が不十分	4	3
坂道が多く歩きに困る方がいる	4	0
若い人の地域活動への参加が少ない	4	3
障がい者、一人暮らし老人など要支援者がいる	17	11
外国人が増えてきた	4	0
外国人の家庭が多くなり、言葉が通じにくい	6	12
避難先の箱モノが少な過ぎる	4	1
避難訓練をしていない	4	1
避難所がハザードマップにかかっている	3	1
非難所に適さない場所が避難所になっている	3	3
避難場所へ行く道がない	3	1
避難所までの道の高低が大きい（坂道が長い）	3	3
道路の亀裂段差	3	1
隣りとのすき間が無いので火災発生時延焼がこわい	3	0
地域が広すぎる	4	2
ほとんどの方が高齢者なので体の自由がききにくい	3	2
若い人が地域（地区）を出ていく	3	1
空き地の草刈りをしてくれない	3	3
継続的にリーダーをしてもらえる人がいない	3	0
個人避難計画ができていない	3	2
消防署少し遠い。	3	1
消防団員の8割ほどが地域内に住まいしていない	3	0
消防署が合併される不安感が強い	3	0
消防団がない	3	4
公民館の耐震ができていない	2	2
ペットと一緒に避難できる場所がない	2	3
学校が少なくなってきた	2	0
下水道管が雨水排水が共用のため内水での災害が想定される	2	2
長田川の堤防がきれる（集落全体が水に浸かる）	2	3
救助を求めて、すぐに助けられるか不安。	2	0
行政からの情報提供が少ない。	2	1
自分の事しか考えない人がいる	2	0
後継者がいない	2	4
役員、民生委員さんのなり手がだんだん減ってきた	2	5
耕作放棄地が増えている	2	0
家屋が古く耐震性がない。	2	7
外国人の人と普段の付き合いが少ない。自治会の付き合いをしていない	2	2
防災リーダーの育成ができていない	2	0
災害マップが更新されていない	2	1

井戸があっても水が飲めなくなる。	2	3
トイレの備蓄	2	3
支援がくるまで頑張れるかが心配。	2	0
自治会に入っていない家がある	2	0
女性の参画が少ない	2	0
消防団の活動が消極的	2	0
福祉・災害、個人情報保護のあつかい	2	0
地域防災組織が機能するのか？	2	0
災害時の対応のための体制ができていない	2	1
行政支援が人口比に応じていないため公助に期待できない	2	2
電柱が多い	2	0
緊急時のMCI無線の電波悪い。困る。	1	1
高齢者が多いので連絡できにくい	1	2
防災無線もなく、連絡不足になる。	2	4
マンション・アパート住まいの住民の自治会加入が少ないので連絡手段ができない	1	0
回覧板が機能していない	1	3
全員が携帯を持っているわけではない	1	0
小さな災害は我慢してしまう	1	0
固定観念・災害を受け入れられない	1	0
人が多いことに安心していて危機感がない	1	0
無関心な方が多い	1	0
避難施設が十分でない。バリアフリー化されていない	1	0
避難所が多すぎて何処に行ったか確認が困難	1	0
福祉避難所はあるが、具体的運用訓練ができていない	1	0
自治会、自治協役員が避難所の鍵を持っていない	1	1
地区市民センターに身体に不自由な方の車イスがない	1	2
避難所の開設が遅い	1	0
高齢者施設がない	1	0
市役所が遠い	1	2
近くに一級河川木津川があり堤防決壊等が心配である	1	0
農業用の大きなため池が決壊するかも	1	2
公民館の上（裏）に、ため池がある。	1	0
川の南地域は大雨に弱い	1	0
河川、山からの濁流が心配	1	0
森寺～材料～沖が風の通り道で、強風災害が出る	1	0
若年層が少なく、地域での自主的な活動が十分に行えない。	1	0
住民の高齢化により、防災訓練への参加者が減ってきている	1	0
各班の個数が多く把握できない	1	0
危険な場所が分からない	1	0
災害についての勉強会等が身に付いていない	1	0
情報が共有されてない	1	1
過去の災害を伝えていない	1	0
救助のためのスキルがない	1	1
比自岐住民が消火栓の使用がわからない	1	0

体が弱い人の介護ができるのか…	1	0
寝室の場所がわからない	1	0
情報を得にくい。	1	0
情報を信じてもらえるか	1	0
正しい情報が入ってくるのか	1	0
頼りにしていた人が思っていたより体力不足なっていて？	1	2
災害の時人数が足りない。支援団員もいるが消火活動が遅れる	1	0
高齢者が多い。歩くのが困難な人を助けられる人が少ない	1	0
体力のない人多い	1	0
近所付き合いをしている世帯がある	1	0
避難場所が近くにある	1	0
毎年、防災訓練をしている	1	0
伊賀市とのコミュニケーションが弱い	1	0
社協の地域福祉コーディネーターが来る回数が少ない	1	1
市の避難行動要支援者名簿の開示、民生への提供がない（西部市民センター金庫内に保存されたまま）	1	0
変えるのをめんどくさがる人多い	1	1
家の中で籠って内向的になってしまう？	1	0
若い人たちの声が届けにくい	1	0
心配性の人が多い	1	0
高齢化。義務と権利のはき違い	1	0
大きな災害があったら家から出ない	1	0
年齢差による考え方の違い	1	0
男性に元気がない	1	1
農業従事者が少なくなっていく	1	3
狩猟者が減ってきた	1	0
若年者ドライバーが少ない	1	0
山林の管理が実施されていないので年々日当たりが悪くなっている	1	1
団地、階段しかなくて移動が困難	1	2
遊具の劣化	1	1
七つ池の土手の管理	1	0
小学校耐震対策未だ	1	0
空家が増えてきており、台風等の災害時問題	1	0
空き家が多くなってきて災害時等管理、連絡がとれない	1	0
隣の家が空家などで草が伸び放題・草を刈ってあげてもしらんぷり	1	0
防災マップはあったようだが、今は周知されていない	1	0
「わたしの安全シート」の活用がない	1	4
毛布等物資がない	1	2
水及び食料が届かない	1	0
防災機材の不足	1	0
充電式バッテリーが必要	1	4
AED取りに来れない。時間帯も限られている。	1	1
孤立すると飲まなければならない薬を取りに行けない	1	2
まとめりがない	1	0
把握ができていないと支援物資を届けることが困難	1	0

住宅地と工場地の共存関係	1	0
インターホンを鳴らしても出てきてくれない	1	0
戸の人口が少ない	1	0
比較的地元で仕事をしていないので、災害が起こっても避難民になってしまう	1	0
それぞれの家の主人がすぐに帰ってこれない	1	1
火事がおこると火を消しに来てくれるのが遅くなる	1	1
防犯・見守り対策が不十分	1	0
地区での防災対策	1	0
各自治会単位での災害に対する意識が向上しているが、隣接自治会同士の協力がまだ希薄である。これからは連携するべきだ。	1	0
役員の多いのが難。31戸の村に役員が多すぎる	1	0
消防団に頼っている	1	0
組長制度がなくなった	1	2
非常時の連携の仕方不明。	1	0
地区で足の不自由な人が把握できていない	1	0
夜になると一人で歩いて出かけることが難しい	1	0
ヘリコプター、着地点ない。	1	12
鉄道網が弱い	1	1
大雨、雪の時の交通が困る	1	2
免許を返納したので、はたっ子を使っているが本数が少なく利用しにくい	1	0
関西線はすぐ止まる	1	5
環境整備できない。人材↓、高温、行政もムリ	1	0
災害対策本部になるであろう青山支所が機能しないと思う	1	0
防災に対する活動がない	1	2
要支援者へのシュミレーションができていない	1	0
安否確認ができない	1	0
安否確認に時間がかかるのでは	1	1
道路沿いの黄の高さが高い	1	0
おいていかれるのを忘れているのを探す	1	0
ゴミの処理場がどうなるか不安	1	0
物資が届かない（優先が低い）	1	0
地形的に問題あり	1	0
非常灯が無い	1	0
生活環境（多文化）が災害のときの対応	2	4
困りごとが分からぬ	1	0
一部、地震に強い土地がある	1	1
障がい者への支援のあり方が分からぬ	1	6

理想

意見（原文ママ）	意見数	いいね数
若い世代の多い地域	69	137
住民が互いに協力、助け合いながら生活していける。	30	35
耐震などを意識した家の改修	24	22
若者が働く場所を作りたがる	14	20
早期河川改修	14	13
集合住宅を建てて、みんなで助け合って暮らす。	14	29
人と人の繋がりが強い地域	12	17
道路の拡幅	12	24
住民のコミュニケーションがさらに強まる事	11	13
避難所を多く作る。	10	12
災害時の備蓄品が十分準備されている	10	4
人口が増加して欲しい	10	4
災害シェルターが増えている	9	10
医療機関の充実	9	23
道路が整備される	9	18
避難訓練が毎年行われている	9	13
避難時、住民が全員生活できる建物。	8	10
コンビニやスーパーが出来ていたらいいなあ	8	8
近隣県へのアクセス道路を増やす	8	13
避難所の耐震化を行う	7	7
緊急時の連絡体制が整理できている	7	5
防災用ヘリポートの整備	6	8
ドローンで人も物資も移動可能	6	13
各小場に避難所があり、すぐ避難できる	6	11
高齢者の避難が出来る体制をつくる	6	6
空飛ぶ車の導入	6	14
外国の方とも仲良く暮らしていける地域であってほしい	6	14
移住者を増やす	6	6
緊急連絡網が完備できている	6	3
誰が何処に住んでいるか。家族構成、介護、健康状態の把握	5	5
崖崩れの危険がある場所の補強	5	3
インフラ整備。ガス管、水道管の耐震化は少しずつ進められているが	5	2
空き家に他から入居者が入る	5	3
若者や外国籍の人が力となる地域	5	18
車が無くても困らないほどの店、病院、施設があればいい	5	6
災害を見据えた道（移動手段）のある地域。	5	10
健康な高齢者が多い町	4	2
公共交通が便利になればよい	4	5
災害のない町であってほしい	4	1
災害の少ない「地域づくり」の促進	4	4
避難所の充実	4	7
河川の底ざらいと堤防強化	4	4

山の整備がされている	4	8
地震がおきてもほとんどの人が自宅で生きていくてる	4	3
高齢者も安心できる	4	3
若者が戻ってくる地域づくり	4	13
三世代の家族が寄り添って生活できている	4	2
地域ぐるみで取り組む体制を充実させる	4	17
近くに消防署や警察署があつたらいい	4	4
急傾斜がない地域。	4	2
農業、林業を産業化して若い人を増やす	4	3
防災に関する仕組み、役割が明確	4	2
防災無線の充実	4	7
自動運転車両が自由に活用できればよい	3	5
エアコン完備の避難所であつてほしい	3	20
集落単位で避難所に十分な備蓄や備品が整備されている	3	1
予備電源を各所に作る	3	4
防災リーダーの育成	3	3
交通（バス）が確保できていればいい	3	5
避難所の整備（バリアフリーとか）	3	4
皆が顔見知りになっている	3	3
地区内のコンパクト化	3	3
隣接市町・国・県との連携ができるおり、支援が容易	3	0
子ども達が安心して遊べる公園等が近くにあればいい	3	4
支援が必要な人に適切な支援ができる体制がとれている	3	4
防災に対する組織が出来ている	3	1
衛星通信等で連絡する方法	3	0
企業を巻き込んだ災害対応	2	7
南海トラフはまだ来ていない	2	0
互いに情報共有できる地域	2	4
AIロボットに助けてもらう。	2	1
コンピューターが発達し、災害時には、各地区（上津）の様子がわかり、 すぐ救助できる体制になっているといいな	2	2
ドローンで配達ができる。	2	4
ドローンの活用	2	3
災害の予知が（AIなど）把握できている	2	3
高層の避難所の設置	2	2
避難時の一時立ち寄り所の整備	2	9
ペットを連れて避難できる場所が欲しい	2	6
ホテルや旅館等、宿泊施設は避難受け入れ先となり、避難や避難生活に不 安がない	2	5
安心、安全な避難場所の確保	2	3
防災マップがすべての住民に届き、内容を把握できる	2	4
堅牢な橋が河川に対し一つはほしい	2	1
ため池を整備する	2	2
ライフラインの確保	2	2
太陽発電の電力を災害時に地域にまわす	2	11

電柱の地中化	2	10
発電機の整備	2	3
防災に対する意識を高める教育が出来ている	2	0
集団移転	2	2
空き家を災害時に活用する	2	1
既存している空き家を行政の方で取り壊しを行ってくれる町であつたらいいな	2	2
どこでもドアで好きな所に移動できる	2	5
エスカレーター等の機械化によるバリアフリー等、楽に移動できる	2	4
しっかりと防災計画が住民に知れ渡っている。	2	0
食料（米・野菜）を多くのところで作っている	2	3
物資が直ぐ届く	2	2
より自主的住民自治が進んでいる	2	2
過疎化にならないよう都市機能を持ってくる	2	3
小学校の維持	2	0
利便性のある住みやすい田舎	2	2
移動販売車が毎日広場に来てくれて、買い物をしたり話をしたるする時間を持つ	2	8
主要道路以外に別の道路を造る	2	3
獣害対策が進んでいる	2	0
耕作放棄地を無くす	2	3
あれも、これもでなく、阿波夏祭り、元旦マラソンを全員で	2	6
南海トラフを想定した防災訓練を確立して欲しい	2	3
各家庭の自家発電	2	7
防災センターが出来ている	2	1
防災放送で全区民に連絡できるようになっている	2	7
環境に配慮した企業が来る	1	1
工場の人と意思疎通	1	0
テレワークの推進	1	1
比自岐地区に合った企業が来ると良いと思う（そのことで地域の活性化が見込める）	1	0
今の健康を継続するためにもスポーツの方に力を注ぐ	1	2
みんなが健康	1	0
ゴミの集積場が崩れないようなテーマパークになればいいな～	1	0
ゴミ処理等家から地下コンベア等で家から直接ゴミ処理場に行くようになったらいい	1	0
不審者がいるなどの情報を皆が共有できるように。	1	0
防災情報、手段の整備	1	0
災害用車両がある	1	0
ドクターへりの運用	1	0
AIとかシステム操作の人が育っている	1	1
災害⇒救助ロボット、人が入れないとこ	1	1
デジタル安否確認システムがある	1	3
ドローンで避難できる	1	1
ボタンひとつで助けがくる暮らし。	1	2

連絡網のデジタル化	1	3
すぐに立ち上がる避難所が準備されている	1	1
鞆田小学校を改装して避難所にする	1	2
避難カプセルの活用	1	0
避難所としての公園に防災井戸が設置されている	1	1
病院や社宅を避難場所に開放される	1	5
集議所のトイレが水洗で男女別々になる	1	1
障がい者に対するには、地域で役割を決める。	1	0
有事の時の移動手段として、誰が何を使って援助？	1	0
若者がいなくても高齢化が進んでいても速やかに避難できる体制が整っている	1	0
細かく計画を作成しておく必要がある	1	0
災害が来た時スムーズに移動できるマニュアルを作る	1	1
どこに避難するかを知っている。	1	0
ハザードマップが上手に活用されている	1	0
防災マニュアルが住民に浸透している	1	1
護岸されている	1	1
地滑り地域や水害予想地域への対策が整っている	1	1
洪水がおきても全員逃げきれてる	1	1
災害が起りそなところが15年前より10カ所少なくなっていること	1	0
倒木が無く停電がなくなる木の伐採	1	0
蓄電設備	1	1
コーディネーターが役立つ仕事をする	1	5
災害ヘルパーがいる。	1	2
比自岐地区から議員選出	1	7
防災士の育成が出来ている	1	2
88歳で何ができる。もっとコンパクトに	1	0
古い「しきたり」にしばられない	1	1
防災意識が高く、特に障害者への配慮が充実している	1	1
皆がマナーを守り警察がいらない世の中になる	1	1
今の若い方が中心なんで切実に吹き込まないといけない（理想の町）	1	1
自分達の地域の弱みを理解している	1	0
体験するしかないのでは。15年以内に。	1	0
地域の人々の共通理解が進むといい（災害に対する）	1	1
月に住む	1	1
一人でも生活ができる住みやすい村でいてほしい	1	1
中瀬小学校の立替	1	0
空き校になっている所を何かに利用して。例えば介護に関するもの	1	4
空家がない	1	0
空き家を利用してカフェなどできたらいいな	1	4
荒地の整理と有効活用	1	3
鉄道を強靱にする	1	2
希望者全員が入居できる施設の整備	1	1
高齢世帯の見回り（訪問）が充実している	1	1
とくに高齢者の移動手段が整備されている	1	1

福祉の充実した地域	1	1
要援護者の支援プランを用意する	1	1
高齢者福祉が進んでいる	1	0
人口減少を想定した環境	1	0
草刈りや出合いは市がやってくれて、高齢者は自分の家のことだけをする	1	0
15年前の計画が活かされている	1	0
防災計画に基づいて活動できる	1	0
阿波トピアプラン第3次（10年間）の計画策定	1	2
井上区の改修が終了している	1	0
旧市街地の公共下水計画は白紙になっている。進められるか	1	0
市の総合計画が一步一步実行していく	1	0
PHV車を増やす	1	0
エコビレッジ	1	2
伝統文化を継承しておらの町が一番と自慢できる町づくりを目指す	1	1
都会から住みたいと思ってもらえる地域づくり	1	3
通り過ぎるだけでなく、地域を目指して来てくれる人がいたら良い	1	0
にぎやかな町になるように	1	0
ボランティアを登録してもらい皆で共有する	1	6
皆に役割や居場所がある	1	3
現在の若い世代、若い世帯とうまく世代交代できて、町の様々なシステム維持や更なる進化があればよいか	1	0
笑顔が多い街	1	0
地域で子育てやクラブ活動を応援する	1	3
生活に使えるくらいの井戸水が確保できている	1	0
トイレ用品の備蓄を増やす	1	1
魅力あるひじきファームづくり（備蓄などに協力してもらえる）	1	4
ローリングストックのルーティーン化	1	0
大地震が来ても最初のゆれで誰も死んでない方がしてない。	1	0
山村留学制度の創設	1	0
観光客が多く外国人が永住する	1	0
出産のお祝い金が欲しい。若い子が住んでくれる住みよい町	1	1
自治会費を交付金にする（税↑）	1	0
税金が安い街	1	1
組長制度の確立	1	2
各地区（小場）単位での協力で少人数での行動が出来るようになっていく	1	0
ガソリンスタンドが増える	1	0
公共施設の充実（郵便局、保育園）	1	1
近くにコミュニティ広場があればいい	1	3
レジャー施設やリゾート地を誘致	1	0
近鉄伊賀神戸駅前の発展	1	5
市民センターが移転して新しくなる	1	1
R422の拡大、ルートの確保	1	2
災害時の避難ルートを何通りか作っておく	1	0

舗装した道が多く、歩きやすいように	1	0
階段に坂道をつける（高低差があまりない、ゆるやかな）、手すりをつける	1	0
自然をテーマにした観光活性化による道路整備	1	0
サロンが続いている（細々とでも）	1	1
出合が少なくなったらいい	1	0
動ける人は総動員、敬老会復活	1	0
桐ヶ丘全体に防犯カメラの設置	1	4
災害拠点施設の充実	1	1
防火防災物資を備えた市民センター増設	1	0
地震時にブレーカー自動遮断器を市全体に設置（通電火災発生防止のため）	1	0
防火水槽（道路上のパイプライン上）の増設	1	0
1回食べたら1週間生き延びられる食品が開発される	1	0
石ころが食料品に変わるソースがある	1	0
防災食がもっと美味しく、手軽に	1	0
大きな（長期）災害では自治協で対応できる体制づくりが大切	1	0
消防団→自警団 自分たちで地域を守る	1	4
消防団員の増員できたらなあ	1	0
安否確認ができる仕組みができている	1	2
ご近所同士のコミュニケーションツールか何かできたらいいな	1	4
住民全員にタブレットを配る	1	0
集落でWi-Fiの環境を整える	1	4
ひとり一人がヘルプブザーを持っていてそれを発信できるといいな	1	0
プライバシーの確保	1	0
防災台帳システムの継続	1	0

解決方法（市民）

意見（原文ママ）	意見数	いいね数
災害への意識と関心を持つ。	16	15
水や食料品を備蓄する	16	12
近所の人たちとの交流を増やす	13	26
各人が健康であることを心掛ける	13	14
地域の繋がりをさらに密に	12	11
お互い協力して助け合っていく	12	11
近所の人と日頃から仲良くしておく	9	14
常に隣近所に気を配る	9	3
隣近所への声掛け	9	10
それぞれが安全な避難所を確保する。確認しておく	7	5
市民として個人個人が出来る事は自分でする	7	9
地域活動に進んで参加	6	14
非常持ち出し袋を備える	6	3
先ずは、全員が自分の事として受け入れる	6	4
危機感を持つ	5	6
防災グッズの常備	5	8
自助として防災用品をそろえる	5	10
家の耐震化	4	4
高齢者がずっと健康でいられるような取り組み	4	3
組単位なり小場単位で連絡網の徹底。災害時特に必要。近所付き合い把握する事。	4	3
市民としてそれぞれの防災等などの意見交換	4	2
挨拶をする	3	5
避難訓練が常時されていること	3	3
山の管理	3	2
無理な抵抗はしない。今を（現実を）一生懸命に生きる	3	4
日頃から災害時の事を想定しシミュレーションしておく	3	4
安全な避難場所の設置	2	1
近所（地域）のことに関心を持つ。	2	1
若い人が多くいること	2	1
地域コミュニティに参加、隣人を知る	2	2
防災知識の修得	2	3
行政に空き家対策を進めるように求めていく	2	2
体力つくる	2	6
避難者の受け入れ	2	0
費用面での対策が行き届いている	2	0
皆の意見を出し合い危険な所の洗い出し	2	6
安否確認シートを発展させて、より充実させたマップづくりに協力する	2	2
地域から住民を迎える（空家対策）	2	2
防災訓練に積極的に参加	2	0
若者が働く場づくり	2	0
防災訓練の見直し	2	2

自分の身は自分で守る	2	5
若い人たちがまち協にもっと関わっていけるようにする	1	1
人が行き来する機会を増やすため、中心部以外に自然観光施設の整備	1	0
伊賀市で地域同士が携帯で連絡が取れるようなシステムを作つて欲しい	1	0
子どもを上野に住ます。同居＆近所の推進	1	2
昔からの住民だけでなく、移住してきた人と交流する。	1	0
日頃からひとりひとりを大事にできるくらし。	1	0
各人の得意技を知り合う	1	1
隣りの不自由者の把握、人の把握	1	0
避難場所は、各小場集会所を利用しているが設備と用品が少ないため継続補充して欲しい	1	1
食料品等を送ってもらう・薬等も送ってもらう	1	2
ドローンの活用（薬・宅配・食品）	1	17
日常からハザードマップを意識して生活する	1	0
消防機材やマニュアルがユニバーサルデザインになっている	1	0
地域連携を強くし相互の連絡が密になる	1	0
災害備品の取り扱いを教育する	1	0
今ある自然を守る努力（乱さない）	1	1
ローリングストック	1	5
個人蓄電池等の購入。ソーラーパネルの導入	1	3
プライバシーと災害時の情報	1	0
地域外に住む・身内との話し合い	1	0
田舎生活の良さを考え直す、再発見する（農業、伝統、環境）	1	0
災害に強いまちづくりのアイデアを出し合う	1	2
家の話し合い	1	0
積極的に援助活動に参加	1	0
日頃のウォーキングを通じて、地区の地形を知る事で災害時の対応に繋げる	1	2
家の整備をする（不用品廃棄）	1	0
自分が主役であるとの自覚	1	0
若い人たちに来てもらえるイベントをする	1	1
町の中心に避難図の大きいものを設置（避難所を知らせる）	1	0
防災マップ、支え合いマップの毎年確認（地域の役員）	1	1
携帯充電器を各自で用意する	1	2
携帯の活用、ハザードン。	1	1
地域の草刈り等の行事に進んで参加する	1	0
集落ごとの拠点分散・対策	1	0
地元の業者	1	0
地域で顔見知りになるような行事等を作っていく必要がある	1	1
人をいじめない	1	1
ラジオを買う	1	0
今やっていることを信じて続ける	1	5
移動販売車の利用	1	2
簡易トイレの備蓄	1	1
参画しやすい事業の発案と実施	1	2

避難行動を日頃より確認。	1	0
古い建物の修理、建て直し	1	0
市民支援者になる覚悟を持つ	1	0
孫世代に郷土愛を洗脳する	1	3
個人避難計画をもっと普及したい	1	1
隣接するコミュニティ（音羽、丸柱、西山…）との連絡網	1	0
行政が河川内の清掃管理	1	0
現状・課題の洗い出しのための話し合い	1	0
災害が起きた際のネットワークを明確にする	1	6
遠くの親戚より近くの他人	1	0
笑っちゃおう、明るくやろう	1	1
防災物品の拡充	1	0
自分は矢持地区に必要とされていると感じること	1	1

解決方法（地域）

意見（原文ママ）	意見数	いいね数
定期的な防災訓練の実施（年1回）	32	36
防災訓練等があれば積極的に参加する	9	11
人と人との助け合いができる。	9	10
緊急時の連絡体制整理（作成）	9	18
近所・地域との繋がりを密にする	8	15
移住者様受け入れ積極的に	7	6
お互いに声掛け、挨拶をする	7	8
マニュアル防災マップ。毎年の見直し	7	13
災害に強い避難所の建設	5	5
情報共有がしやすい関係づくり	5	21
ボランティア活動参加	4	5
各地区での防災訓練の強化	4	0
地域の人の防災への意識を高める。団結力高める	4	2
地域内での情報の伝達共有	4	3
水、食料の確保	4	3
日頃より地域住民の状況を確認するよう心掛ける	4	2
地域の行事に参加する	4	5
山林の整備（土砂崩れ対策）。	3	4
支え合いマップを作成する	3	3
参加意識を持つ（任せにしない）	3	4
いろんな役割を多くの人たちで分担・交代する	3	6
消防団員を増やす	3	10
要支援者の把握と情報更新	3	4
何か起きると一致団結する力がほしい	3	1
地区間のコミュニティを大きくする	3	2
縦、横の繋がり	3	5
普段からコミュニケーションのとれる場を作る カフェ、健康体操	3	10
農業・林業を継続する	3	3
不自由者の避難路の確認	3	2
災害予防の備品等、時期を決めて定期的にチェックする	3	4
情報端末（スマホ）の使いを学ぶ。できるようになる。	3	5
各小場に避難所を設けるには、近くの空き家を活用できるよう関係者に理解を求める	2	3
市民センターに井戸を掘る。蓄電池を設置	2	3
有事の時に井戸水使用できるように整備点検する	2	5
花之木まちづくり計画を着実に進めていく	2	1
空き家を災害に強いシェアハウスに斡旋。	2	7
防災訓練を実施（年2回以上）	2	0
組の集会や地域の集会等で防災の話をするようにしたい	2	1
「自助」「共助」の取り組みの周知	2	4
各種情報提供	2	1
日常に災害飯について考える。使ってみる	2	1

各避難所に備蓄品の整備	2	1
ネットワーク会議を継続していく	2	1
サロンなどでコミュニケーションつくりする	2	3
地域の繋がりを断たれないためにみんなで集まれる場（機会）を増やす	2	8
避難ルートの策定	2	0
防災リーダーの育成。	2	0
自主防災組織を充実させ、活動できるようにする	2	3
ヘリポートを作る（休耕田を活用する）	2	4
行政にアイデアをいっぱい出す	1	1
地域、市民、行政をつなぐ	1	0
行政と連携して積極的な防災に対しての意識と知識を深め市民にもそれを共有する	1	0
安否確認の迅速化は行政と地域の連携が必須	1	0
二世帯住宅への切り替え補助。世代間の子育てへの協力ができる	1	1
健康第一に考え体力づくりに努める	1	1
地域の行事の見直しや役職を軽くする	1	1
男女で力を合わせて取り組む。女性を役員に	1	3
5者協定で木を切る。毎年続ける	1	0
山の植林。太陽光ばかりではダメ	1	1
道路周辺の立木を切るように（倒木）してほしい	1	0
徹底的に話をする	1	0
自分たちで何ができるか、地域で話し合いを。	1	0
インフラが整う。備蓄、ガス・水・電気	1	0
一家に一台発電装置。	1	2
非常電源の確保。スマホ等が避難所で使えるように	1	3
他の地区の避難所を知る	1	2
避難所の確定。一次、二次、三次	1	0
避難場所が一目でわかるように表示する	1	0
災害にあった地域を訪問しボランティア活動するなどして自分たちの地域において何が必要であるかを考える	1	0
ボランティア制度の充実（有償ボランティア）	1	1
現在進めている「きらっと輝け」を推進し、災害時に助け合えるようにしておく	1	0
最新の技術だけでなく、昔からの技術の伝承。	1	0
友生地区全体のハザードマップを作る	1	0
「安心シート」の普及	1	1
地域の危険個所の把握と日頃の点検	1	2
火災時への対応。住民が自動的に活動できる方法を考える	1	1
コンパクトシティ（にぎわい）	1	1
駅前の開発、若者が楽しめる街	1	7
駅南の土地、大学を誘致	1	0
若い世代が定着できる街づくり	1	1
多くの場所に止まって販売してもらう	1	1
住みやすい町づくりを目指す。魅力ある町の特色を作る	1	0
地域で勧誘	1	0

弱者へのサポート体制（民生委員さん中心に）	1	0
支援者（近所の）のキープ	1	0
民生委員・まち協と協力体制の確立	1	0
自治会と民生委員との連携を強化する	1	0
比自岐地区としてコンサルに入ってもらう	1	1
医療、介護専門職人材を知っておく	1	0
組長制度の確立。リーダー	1	4
ドローンの操縦が出来る人材を	1	3
税金に頼らない計画	1	0
資金	1	0
学び直し	1	1
車いす、リヤカーを用いた避難訓練の実施。	1	2
日頃から少しづつ、高齢者から子どもまで、わかりやすい訓練や活動を進める。	1	2
様々な災害に対応した災害訓練の充実	1	3
消防さんと消火訓練を実施する	1	3
細やかな避難訓練の実施	1	0
タブレット使用講習会を実施	1	0
毎日の取り組みが大事なのかなと思う	1	0
子ども同士は何をして遊んでいいのだろうか。スマホではダメ	1	0
元気に野菜作りを続ける	1	2
高齢、単身世帯のパトロールできれば。	1	1
見守りサービス	1	2
問題意識をもってやる。	1	0
自分たちの地域は自分たちで守る	1	0
安全バイアス意識変革の取り組み	1	0
耐震診断の推進	1	0
各家庭での防災	1	0
自治協が仲良くする	1	2
自治協が存続しえていること	1	0
若い人たちが助けに来てくれる仕組みを作る。	1	6
避難所マニュアルを作る	1	1
衛生環境の充実	1	1
ファーストミッションボックス等初動ができり方法抱門	1	0
避難施設の充実	1	0
一時立ち寄り所の整備。生活用品の充実	1	0
自主申告で自治会に自分の情報を知らせる仕組み	1	0
地域で井戸のある所をチェック！	1	1
ローリングストックを地域に増やす	1	0
一人ひとりが孤立しないこと	1	3
海外の方とのコミュニケーションが取りやすく、一緒に生活しやすくできるような仕組みを考えてほしい	1	1
さりげない見守りとあっさりとした地域の繋がり、人づくり	1	3
地区の皆さんと笑顔で語り合えること	1	0

地域としては住民の方々の把握とコミュニケーションをもっと深く進める	1	0
向こう三軒両隣	1	1
南部で大きなイベントをする	1	2
全員が楽しく活動できる地域づくり。	1	0
若者が中心となる。若者が参画する行事	1	4
若い世代の人たちが地域の事に目を向けるように楽しい行事を行う	1	2
農地を確保して欲しい。外国に頼らないで欲しい	1	0
市民センターへの避難について橋を渡る必要があるので各小場での避難を進める	1	0
災害時に移動するための手段を考えておく	1	2
災害時、想定した組織図を作る。	1	0
自助＝公助となる組織。	1	1
AEDの設置場所の把握	1	0
区ごとに防災倉庫をつくる	1	2
市民全員が使える小型ポンプ、消防団	1	2
簡易トイレの備蓄	1	1
発動機が必要	1	4
消火器を各地区の使いやすい場所に	1	0
各地区にゴムボードに備える	1	0
地域間で連絡強化	1	0
防災無線の導入	1	3

解決方法（行政）

意見（原文ママ）	意見数	いいね数
山の整備。川の整備	13	21
防災対策予算の拡大	11	26
道路の拡幅	10	36
道路の整備	8	14
安全な避難場所確保。	7	14
地域・自治体任せにせず、もっと深く地域に関わっていく	7	5
防災設備（施設）の充実	5	1
耐震診断、費用の補助金と増加	5	5
防災無線の整備。	5	5
空家を無くす	4	16
病院など地域医療の充実	4	4
避難しにくい道路等の改善	4	7
河川の河底のそうじ	4	3
発生事、確かな行政の対応を願う	4	2
行政は、被災地の確認及び住民に対する情報提供を細かく行う。	4	5
道路網の整備。	4	4
若者の就労、企業誘致	3	2
バイパス道路や橋の設備を強化する	3	6
木津川の川床整理の推進・進捗	3	4
市民センターの建設（兼避難所）	3	15
食料の備蓄品を増やす	3	2
伊賀MERの設立	2	9
安全な避難経路の確認	2	2
もうちょっと防災に人を配分してほしい	2	0
各地域の実情に合った施策を実行。	2	3
15年後より明日の日本を心配して欲しい	2	1
消防が近くにある	2	0
人口拡大。移住者の増	2	9
伊賀市と名張市との行政の繋がりを強くして生活しやすいようにしていた だきたい	2	4
備品購入の補助金を出す（個人で購入の場合）	2	7
各家庭の有線使用で呼びかけなど	2	2
インフラの整備	2	4
若い世代への子育て世代への支援	2	4
公園を増やす。遊び場を作る	2	2
山の手入れができる補助金を出して	2	1
耐震補強工事を全戸にする	2	2
災害用シェルター建設への補助、または、何カ所にもシェルターを行政が 建設する。耐震費用の80%以上を補助する	2	1
避難場所はあるが設備が足りない。補充を継続して欲しい	2	7
避難所の整備。バリアフリー	2	5
マイノリティの人権を（も）尊重した避難所づくり	2	8

行政の支援体制を明確にし、住民に承知	2	0
各地区にAEDの設置	2	6
道路の溝の掃除	2	0
防災センターの建設、運営	2	2
小学校にヘリコプターを止まれるようにしてほしい	1	3
物資の運搬は道が寸断されたときヘリコプター、ドローン等を利用できる	1	1
市街と離れた地域なので、行政からの助けが遅くなるのではないかと心配しています。	1	0
空き家バンク制度のピーアール	1	1
デジタル安否確認システムの構築	1	7
タブレットの配布	1	2
ハザードンをもっと使いやすくする。	1	6
相互のやりとりができるアプリの開発。	1	3
企業誘致→税収のアップ	1	1
阿波地区を一つの町とする。市街地一極はダメ	1	1
机上の理想論ではなく、他府県や他の地域の成功例を参考に取り入れる	1	1
健康寿命を支える。社会の中でのサークル活動を増やす仕組みづくり（行政や自治会単位）	1	2
市民の声を聴いて前向きに取り組んでほしいです	1	0
行政はあてにするものではありません。自助共助です	1	0
行政・地域・ともに住民に理解されるまで説明する（移住に対し）	1	0
常に市民目線で対策を立てる	1	2
えらそうにしない	1	1
消防施設の合理化の見直し	1	9
同居手当を出してほしい	1	1
人口を増やし、税金増の政策	1	0
地域独自又地区独自の見守り隊を作る。その為に必要な財源を行政が出しつてほしい	1	0
行政が高齢者の見回りをする	1	0
国会経費の大幅減額し地域に配分	1	1
井戸水の検査費用の助成	1	2
ソーラーパネルの補助金	1	3
水道（水源地）の確保、手法の確立	1	1
地震時にブレーカー自動遮断器を伊賀市全体に設置（通電火災防止のため）	1	0
下水道の整備（排水するところがない??）	1	4
電気等の電波塔にする	1	0
集会所の屋根に太陽光発電と蓄電池システムを導入して欲しい	1	2
災害時に生活水として岡川が利用できる設備	1	2
現在でも水道管の老朽化等で、事故が起きているため、不良箇所の点検等をしっかりして欲しい	1	2
給水車配備	1	1
大型ろ過装置設置	1	4
不動産取得や農業のための規制緩和	1	0

住民に参加を広めるには、働いている人たちも参加しやすい工夫がほしい	1	1
人口を増やすため、結婚で住み着いた方、子どもが出来た方には、行政が1家100万円だす	1	3
移住支援施策（特に若い子育て世代に対して）	1	1
結婚する方には祝い金を出す	1	2
市会議員を削減する。小さな市行政を実践する	1	0
議員を減らしその分を防災の予算に回す	1	2
長田川の護岸工事	1	0
強固な河川の堤防の設置	1	0
ハザードマップの洪水箇所の地面をあげる	1	1
危険個所を隅々まで工事する	1	2
市の総合計画が一步一步実行していく	1	0
いろいろな情報、計画等、主導していく。	1	0
ハード面の強化	1	1
未来のある地域、地区、住みたいと思える地域を実現する。行政の力を注入する	1	1
デジタルとアナログ	1	3
簡単、改良住宅の集約	1	1
住宅の整備	1	3
住めるところの提供	1	3
シェアハウス	1	1
公民館に防災用トイレをたくさん常備する	1	9
地域で予め避難場所を決めて行政が把握しておく	1	1
南部で使える避難所の建設	1	9
大規模避難所の指定をはっきり明示すること、またその確保	1	0
7丁目グラウンドに大型避難所設置	1	3
玉滝地域の避難所の確保（何カ所か必要）	1	1
拠点避難所（旧古山小校舎、体育館）を使えるように修繕する。部屋の確保	1	3
民生委員のデータを区と共有する	1	3
住民の避難計画を分かりやすく周知すること	1	4
情報の共有を充実できること。インフラ、交通どうたいおうしてくれるか	1	0
要援護者等情報の更新と自治会への情報提供	1	2
行政が災害防止の啓発活動を強める	1	0
住民への避難情報等への提供手段（高齢者にハザードンしたいけど無理）	1	2
少子化対策	1	3
近隣県と協議し、相互助け合いでのインフラ整備	1	4
地域と行政がお互いに協力し合う	1	3
地域行事への協力	1	0
支援体制の強化	1	0
高齢者が住みよい街づくり。独居老人、独居人の住みよい街づくりをどのようにしていくか行政が指導してほしい	1	0

災害計画を知るために（全員）回覧をする。	1	0
地域への専門的なアドバイス	1	1
災害コーディネーターの依頼	1	1
医療その他の巡回車を準備しておく	1	0
全道路街灯化	1	0
道路（霧生・高尾間）の完成	1	0
道周辺の木々の伐採	1	5
防災器具の配布、設置。	1	3
社協へ物資の供給	1	0
放送設備が必要	1	0
桐ヶ丘全体が聞き取れるアナウンス	1	0
行政とのホットライン	1	4
衛星通信設備（機器）の配備による通信確保	1	9
防災サイレンの設置	1	0
2, 3年前防災ラジオが回収された（なぜ）もう一度行政でかくかいででの	1	0
国、軍備より防災・福祉に予算をまわせ	1	2
市の予算を周辺地域の災害対策に多く増やすこと。観光よりも人命を大切にすること	1	3
タクシー券を配る	1	3